

丹波市地域福祉推進計画推進協議会 地域福祉推進部会（第1回）【摘録】

日 時：令和2年3月17日（火）午後1時30分～午後3時15分

場 所：氷上健康福祉センター 集会運動室

出席者：澤村安由里部会長・森島美幸部会員・足立美樹部会員・上田まゆみ部会員・

細見加津子部会員・北村久美子部会員・

吉積明美部会員・中川泰一部会員（8名）

（丹波市社会福祉課） 森本副課長・宮野係長（2名）

（丹波市社協） 山田事務局長・芦田次長・松浪次長・荻野総務課長・

田邊地域福祉課長・藤本介護保険課長・小谷介護保険係長・山本地域福祉係長（8名）

欠席者：長井克己部会員・中辻剛部会員（2名）

次第4. 地域福祉計画に関する状況

▶事務局より資料説明し、説明の中で以下のポイントについて協議題を提起。

◆計画策定のポイント（1）介護人材の確保について

- ・離職率を減らすためには、職員の賃金体系や雇用管理体系の規程等整備や管理職のマネジメント力向上を進めていくことが重要であるが、離職率が高いとされている小規模の事業所では人手がなく、整備等に手が回らないことが考えられる。ここに行政が支援していく必要性があるのではないかな。
- ・どのようにしたら、職員のワークライフバランスが確保できるかな。
- ・介護業界全体の情報発信力が不十分である。
- ・介護業界に対する先入観が、かなり以前から固定されたイメージ（きつい・汚い・しんどい等）であり、業界が敬遠される原因の一つとなっていないかな。
- ・主に地域高齢者の支えあいを進めることは、介護保険や自分の老後のことを考える機会にもなる。比較的時間のある中高年齢者が地域ボランティア等に参画することを推進していくことは、丹波市の支えあいづくりにつながり、ひいては介護業界への理解にもつながるのではないかな。

◆計画策定のポイント（2）専門職としての社会福祉法人の活用について

- ・第2層協議体などに社会福祉法人が入り、専門的な立場から助言するなど連携して推進できないかな。
- ・各社会福祉法人の専門分野から、地域での取り組みを住民側からも要望してはどうか。

次第5. 意見交換

（1）介護人材確保について（13：40頃～14：54）

▶部会長

介護人材の不足は、高齢者と事業所数の増加によるもの。丹波市は兵庫県内で一番デイ

サービスが多い（充足率が高い）。「丹波市で安心して老いる」ために重要なこと。

▶部会員

資格を取ったのに職に就かないのはなぜかなと思った。介護者は女性の役割と思われているが、腰への負担があるなど重労働でもあるので、男性の介護士がもっと増えるように何かできないか。

▶部会員

専門職の方が利用者に関わっておられるのを間近で見ると、コミュニケーション能力の高さや専門知識など、その「プロ具合」がかっこいいと感じる。そういった魅力をもっと知ってもらえたらイメージが変わるのでは？中高生にも専門職の魅力を発信しては？

介護が身近に感じられる場をつくることも大切。「だんない」（認知症カフェ）の場で認知症の方とも交流できる。

▶部会員

①今は動画の時代。丹波市社協のホームページにも動画掲載されて充実されている。教育委員会も ICT を推進している。情報発信は大切。SNS でも何でも活用出来たら良い。いき百をしているが、介護予防の現場でも情報は少ない。

②地域で介護予防の取組みに関わっているが、そのようなところにも介護に関する情報は少ないと感じる。介護でも保育でも、人に関わる仕事の給与水準は低い（教育以外）。もっとそこに予算投入してほしい。

③介護は身体的負担が大きいイメージがあり避けられがちなので、身体的負担を減らすロボットなどの機械を導入しやすくする支援をしてほしいと思う。

▶部会長

情報発信力（SNS 活用）で介護のイメージアップを図る。介護現場でロボットや機械化による様々な負担軽減策をしていることを積極的に PR することも有効。利用者の自立を支援するための道具としてのロボット等機械・用具の活用。

▶部会員

自治会の高齢者が中心になって困っている人の支援をしていくことが大切。身近な人が支援・協力してその人に関わってほしい。男性も時間をつくって支援してほしい。

▶部会員

介護施設に勤めているが、大変さは実感している。体の不調を訴える人もいる。私自身はこの仕事が好きなので、できる限りやっていきたいと思っている。

いき百を週 1 回開催し、地域の人に楽しんでもらっている。週 1 回なので地域の方の様子が分かって良いし、民生委員さんも地域の様子が把握できると言われている。

▶部会員

聴覚障がい者の方へは LINE で会議案内等の連絡をするようになった。手話支援員がもっと増えてほしい。昔、介護は「家で」「女性が」「ひとりで」背負っていた。お風呂介助等大変だったが、今はデイもあるし、ありがたい時代と思う。性別に配慮したケアも大事だと思う。

▶部会員

認定こども園の事務に携わっており、保育人材も不足している。丹波市の子どもが都市部へ出ていく。丹波市の労働力が減っている。少ない子どもを丹波市に7, 8割は残して、産業の活性化に寄与していただくことが大事かと思う。3年ほど前に井戸知事が提唱されていた「ふるさと教育」をして、丹波市を担う人材を確保していかないと。高校の福祉科の生徒が地元で勉強できるようにしていかないといけない。県へ地域の声を挙げていくことが必要。市内には8法人13園の認定こども園があるが、人材不足を補うために法人間で協定を結んで新卒の職員さんを確保していくという時代が必ず来ると思っている。

また、市民相互の支えあいがあるまいかというのが現状である。中高年齢者の地域ボランティアが盛んになるような雰囲気づくり、意識変革をしていかないと。

▶丹波市より資料説明（社会福祉課）

（2）専門職としての社会福祉法人の活用について（14：54～15：09）

▶部会員

三味線のボランティアとして施設に行くと喜ばれる。

▶部会員

核家族化で子どもが高齢者と接する機会が少ないことから、高齢者にどう関われば良いのか分からないのではないかと。若い頃から高齢者施設を訪問するなど、子どもが高齢者を身近に感じられるような取組が必要ではないか。

▶部会員

一つ質問がある。先ほど、兵庫県内で丹波市がデイサービスの充足率として一番高いとの話があったが、そうすると当然人材不足が生じてくると思う。そもそも、どこがデイサービスの数を決めているのか。ニーズに合った数かと思うが、どういう仕組みで決まっているのか。デイサービスをやりたいて言ったらできてしまうのか、それとも地域のニーズに合わせて比率が決まっているのか。

▶部会長

丹波市の計画はあって、決まっている。

▶事務局

デイの事業所は市内で30数か所ある。高齢者数から見ても相当多い。現在の第7期介護保険事業計画上では、その制約までには至っていないが、第8期の計画では需要と供給のバランスを考えた上での何らかの検討をされる。

▶部会員

第2層協議体の意味は？よろずおせっかい相談所のサテライトを各地区に作る話が進んでいるが、新型コロナウイルスによる一斉休校で地域が何ができるのかということをひどく考えさせられた。子どものために何かできないか、と思って前山の施設を使って息抜きをしてもらいたくて、いろんな画策をしたが教育現場（教育委員会？）の壁があると感じた。社会福祉法人が連携できる仕組みを作ったり、専門職である社会福祉法人がそういったフレームの整理をしていかないと、と思う。地域も勉強していかないといけないな、と

強く感じた。

▶部会員

今までも地域づくり事業に取り組んでいて、来年度から地域の食堂づくりに取り組む。新型コロナウイルスで不要不急の外出が自粛となり、地域の為のサロンもいき百もできず閉塞感がある。地域のために何ができるか、支え合いは今進んでいるところだと思っている。

▶部会長

法律が変わり、社会福祉法人でも地域貢献として何ができるか考えているが、地域の方からも「こんなのしてほしい」など働きかけをしてもらえるとありがたい。

次第8. 閉会・休憩

丹波市社会福祉協議会 地域福祉推進計画（第4次）協議（第1回）【摘録】

日 時：令和2年3月17日（火）午後3時20分～午後4時00分

場 所：氷上健康福祉センター 集会運動室

出席者：澤村安由里部会長・森島美幸部会員・足立美樹部会員・上田まゆみ部会員・

細見加津子部会員・北村久美子部会員・

吉積明美部会員・中川泰一部会員（8名）

（丹波市社協） 山田事務局長・芦田次長・松浪次長・荻野総務課長・

田邊地域福祉課長・藤本介護保険課長・小谷介護保険係長・山本地域福祉係長（8名）

欠席者：長井克己部会員・中辻剛部会員

次第2．概要説明

▶事務局より資料説明し、以下のポイントについて説明。

- ・これから策定する計画について、位置づけを再度確認。現在の地域福祉活動促進計画は丹波市と丹波市社協の計画が混合している。
- ・現行計画の成果と課題について説明。

次第3．協議事項

- ・現行計画の評価と整理 ※時間の都合上、部会員より一言ずつご意見をいただく

▶部会員

いきいき百歳体操は月に何回すれば備品の補助が出るのか。

▶事務局

週1回の開催となり、月4回実施されることとなる。市に申し込みがあれば補助を行うことができる。

▶部会員

生活困窮者支援について、その人が働くことができたなら、生活保護を受けなくても済むのではないかと。（その支援の方法を考えては？）

▶部会員

自分はボランティアを楽しみながらしている。ボランティアの楽しさが伝わる養成講座ができればボランティアは増えるのではないかと。

▶部会員

いきいき百歳体操やサロンに来られるのは女性ばかり。男性の参加が少ない。男性も参加できる仕掛けがあれば教えてほしい。

▶部会員

サロンで年1回ふれあいバス旅行に行く。サロンの世話役も高齢化しており、バスの補助金の申請手続きも大変に思う。もっと簡単にしてほしい。サロンの場を有効に使い、DVDを見せたり広報して、ボランティア活動は「楽しくできる」「楽しいもの」という見せ方をしてもらえたら、ボランティアも増えるのではないかと。

▶部会員

丹波市社協氷上支所の職員さんが中央地区の地域事業に出てきてくれたり相談にのってくれるなど支援してくれる。福祉が充実してきたと感じる。よろずおせっかい相談所を地区設置していかれるが、相談した時に「できません」じゃなくて、話を聴いて相談にのってほしい。次につながるように支援をしてほしい。

▶部会員

資料3 ページの「相互理解の推進」の「一定の成果」とは？5 ページの「虐待防止への取り組みの推進」で、利用者宅などでケアマネやヘルパーが虐待の雰囲気を感じるときには、横の連携を取って対応されることが大切と思う。

▷事務局

現行計画の中で、丹波市が取り組むことと社協が取り組むこととを分けて記載している。社協は「交流の場づくりや機会の提供」が対応事業となっており、サロンやストップ！要介護事業など、一定の成果が上がっていると思う。

虐待防止については、ほとんど丹波市が主体となる取り組みの記載になっている。

▶部会員

ボランティア講座をする時、丹波市全体のものが多い。丹波市全体でするのも良いが、各地域、各地区でしてほしいことやニーズは違うと思うので、地区からの要望を聴いてもらい、手間はかかるが小規模で開催することで集まりやすくなり、参加者も増えるのではないかな。（←満足度につながる）丹波市全体でする講座、地区単位でする講座と、大小すみわけをするとよいと思う。

虐待防止の観点から、お宅に入られる「くらし応援隊」の人などへ虐待の早期発見、対応研修をしてもらえると嬉しい。虐待防止に対する市民の意識を高めていかないといけない。丹波市担当課からは「何か起きたら対応します」というような態度を感じるが、何か起きてから対応するのではなく「予防」が大切。「予防」への認識が弱いと感じる。ボラ研修、養成研修などで、暴力のない地域を目指すという観点から参加者に応じた研修をしてほしい。

▶部会長

施設でボランティアさんに助けられているが、ボランティアさんも高齢化しておりグループに元気がなくなっている。若い人は仕事などで忙しくてグループに入ってもらえない。従前の意識にとらわれたボランティア活動ではなく、「今までとは違うボランティア活動」にシフトしていかないと、ボランティアを増やすことは難しいと感じる。仕事をしていても、夜あいた時間にちょっと趣味を活かしてできるようなことをして社会貢献・地域貢献できるようなボランティア講座を考えてもらえたらと思う。

次第4. その他

次回、5月中旬に今回と同じ2本立ての会議を行う。

次第5. 閉 会